

平成 24 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472301074	事業の開始年月日	平成17年10月1日	
		指定年月日	平成17年10月1日	
法人名	有限会社 フェルシ			
事業所名	グループホーム ぼぼ箱根板橋			
所在地	(〒250-0034) 小田原市板橋933-3			
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成24年12月1日	評価結果 市町村受理日	平成25年3月8日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、心身を活性化し、認知症の進行の緩和を図る。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	神奈川県横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成24年12月7日	評価機関 評価決定日	平成25年2月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所概要】 この事業所は箱根登山鉄道の箱根板橋駅から徒歩10分位の住宅地にある。環境に恵まれ、近くには香林寺や松永記念館があり、利用者の散歩コースになっている。建物は木材や漆喰など自然の素材を使用し、建物の中は、エレベーターが設置されている。認知症対応デイサービス(定員3名)を併設している。
【看取りなどについて】 看取りに関する指針があり、看取り介護の視点、具体的な方法などが明記されている。家族と看取り介護の同意書を取り交わしている。これまでに5件の実績があり、今年8月にも2件の看取りを行った。医療については協力医の訪問が月4回(各ユニット2回ずつ)あるほか、歯科衛生士が口腔ケアで週1回訪れて口腔ケアを行い、治療が必要な場合は歯科医師が訪れる。また看護師を配置している。
【地域との関係】 自治会に加入し、どんど焼きなどの行事に参加している。神社のお祭りにはお神輿が事業所に立ち寄り、地域の方が、木遣りを歌ってくれる。事業所のお祭りには、地域の方も参加してもらい交流している。高校の職業体験を受け入れており、利用者はゲーム、生徒との会話、散歩等を一緒に楽しんだ。三味線、フルート、ゲーム、紙芝居、ウクレレのボランティアが訪れ、利用者を楽しませている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームばば箱根板橋
ユニット名	かえで

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常的に職員に対して、運営方針や目標の理解に向けた働きかけをしている。	理念は開所時、職員と話し合って作り上げた。「家庭的な雰囲気大切にします」など3本の柱になっており、家庭のようにおせち料理、七草、ひな祭りなど季節の行事食を提供し、季節の節目節目を大事にしている。理念を事務所に掲示し、職員は理念に沿ったケアをしている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入所時より自治会に加入。地域のお祭り等に参加し、交流している。	小田原61自治会に加入し、どんど焼きなどの行事に参加している。神社のお祭りの時には、お神輿が立ち寄ってくれ、地域の方が木遣りを歌ってくれる。事業所の「夏祭り」には近隣の方にも参加してもらい交流している。高校の職業体験を受け入れたり、三味線、フルーツなどのボランティアが訪れることで利用者の暮らしが広がっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	在宅で介護されている地域の方々の悩み事や不安におもっていることなどに対応し、アドバイスを行っている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に数回推進会議を実施している。地域住民、ご家族、ご利用者に参加していただき、そこで貴重な意見を踏まえ、サービスの向上に努めている。	運営推進会議は利用者、家族、自治会副会長、地域包括支援センター職員、法人代表などが参加して平成24年2月から2ヶ月に1回、開催されている。10月の会議で写真を見せながら状況説明を行い、参加者から「写真を利用しての説明は分かりやすく良かった」という意見があった。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	小田原市介護保険課と連絡を摂りながら、協力関係を構築出来るように努めている。	市介護保険課職員と連絡が取れており、要介護認定更新代行などで困ったことがあれば相談にのってもらえる関係を作っている。市の防災研修などに参加している。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠を含め、禁止対象となる身体拘束をしないケアに取り組んでいる。全職員が身体拘束禁止規定について、十分把握している。	身体拘束廃止のマニュアルがあり、身体拘束は行っていない。玄関は夜間のみ施錠し、居室には鍵をかけないで職員が見守っている。職員は、リビングに利用者が見えない時は居場所を確認するなど利用者一人ひとりの位置と様子を把握している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、虐待行為を否定し人権を尊重するべきと認識している。身体拘束も含め、今後も研修等で検討していく。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度より、成年後見制度を利用する方がおり、全職員はその制度について理解している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時及び内容等に変更などが生じたときは、丁寧にご説明するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に、利用者様やご家族に参加していただいている。	運営推進会議で意見を出してもらう場があるほか、家族訪問時などに意見を聞いている。家族から「事業所での日常生活状況を知らせてほしい」という要望があり運営推進会議で写真を使って説明した事例がある。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、原則毎月のカンファレンスに出席し、職員からの意見・要望・提案を聞いている。	8月に管理者の交代があり、管理者は職員に意見を言うように働きかけている。レクリエーション行事などの担当を決め、企画は職員が中心になって行なっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の勤務状況を把握し、賞与査定時に反映させている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へ参加しやすいようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	小田原市グループホーム連絡会に参加し、職員が出席するようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にホームを見学、あるいは体験入所をしていただき、本人が不安に感じていること、困っていることを傾聴し、安心して頂ける関係作りに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者は利用ご家族からの相談に応じ、時には訪問して困りごとなどを聞く機会を作っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に自宅等へ訪問したり、ご家族がホームを訪れながら、アセスメントを行い、必要とする支援を見極める努力をしている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の会話の中から、ご利用者から昔の風習などを教わりながら、一緒に暮らす者同士の関係を構築している。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに、日々のご利用者の様子を話し、楽しかったこと、困った事などをご家族と共にどうしたら本人にとってよいかを常に話し合える関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方がいつでも面会に来られるよう、ホームをオープンにしている。	友人、知人が訪ねてきた際には、居室などにお茶を出してもてなしている。家族とお墓参りに行ったり、誕生日に外出に行く方もいる。俳句の会に参加する方やパワーリハビリを入居前から続けている方の送迎支援をしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はリビングで過ごして頂けるよう、みんなで協働して出来る貼り絵やゲームを提供し、支えあえるように支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族から相談があったときには、守秘義務に注意しながら相談に応じ、アドバイスを行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入所時にご家族、利用者にあセスメントし、利用者の暮らしの把握に努めている。	日常のかかわりの中から利用者の思いなどを把握している。把握が難しい方は、家族から過去の生活の様子を聞いてケアに活かしている。把握した内容は個人記録に記述し、職員間で共有している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、ご家族、ご利用者にあセスメントし、利用者の暮らしの把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体操、散歩など日課として行っている。ひとり一人の趣味などの把握に努め、また一人ひとりの心身状態や有する力の把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1回/月カンファレンスを全職員参加で行っている。利用者のケアで気付いたことなどを話し合い、時には家族との話し合いを持ちながら、現状に即した介護計画を作成している。	利用者、家族、医師、看護師の意見を反映させ介護計画を作成している。モニタリングを月1回行い、介護計画の見直しを3～6ヶ月に1回、行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、生活記録簿にケアの実施、工夫などを記入し、職員間で情報を共有しながら、介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人内の居宅介護支援事業所やグループ法人の通所介護、訪問介護事業所と連携し、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア等を活用し、懐かしい曲を鑑賞したり歌ったりしながら、日々の暮らしを楽しまれている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	昔からの主治医に診ていただいている方は、ご利用者の希望を尊重し、通院介助を行っている。	これまでのかかりつけ医で受診されている方は7名である。受診は家族の対応となっており、家族が対応できない場合は有償送迎サービスの利用が出来る。診療情報提供書により受診結果を共有している。協力医、訪問歯科の口腔ケア、治療が受けられる。	
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	介護職員は日常で気付いた情報を看護職員に伝え、相談している。看護職員は、利用者に対し、状況に応じて受診などを受けられるように支援している。		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	医療機関とは、常に連絡を取り合い、早期退院ができるように努めている。		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	重度化した場合について、主治医・家族と情報を共有しながら、話し合いをしている。	看取りに関する指針をもとに契約時に事業所の方針を家族に説明している。重度化した場合には看取り介護の同意書に同意を得て看取り介護が行なわれる。今年度は2事例があり、これまでに5件の看取りを行った実績がある。	重度化した場合や終末期の対応について研修を実施されることが望まれます。
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	利用者の急変や事故発生時に備えて、緊急時マニュアルが作成されている。応急手当や対応についても行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二度、防災訓練を消防署と地域住民を交えて行っている。	4月は消防署の協力を得て夜間想定 の訓練を実施した。10月には通報、避難訓練を行っている。水、アルファ米、味噌汁など約1週間分の食料品、懐中電灯、簡易トイレ、オムツなどを備蓄している。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した言葉遣い、態度に気をつけて対応している。	法人の接遇研修をほぼ全員の職員が受講している。基本は利用者の人格尊重としている。言葉遣いには気をつけており、管理者は職員の気になる言葉遣いがあった場合はすぐに対応している。個人情報を含む書類は書庫に鍵をかけて保管している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶の時間などを利用し、利用者が何をしたいのか希望を聞き、具体的に出来ることを伝え、本人が納得し決定できるように働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課はある程度決まっているが、こちらのでペースではなく、ご利用者のペースで行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一回、利用者の希望に合わせ、訪問理美容を利用していただいている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は、食事を大変楽しみにしており、一緒に盛り付けや食事の片付けをして頂いている。	買い出しや献立作成は職員が行い、調理は調理専門の職員が行っている。現在は食器洗い、配膳などを利用者は職員と一緒にしている。職員は利用者と同じものを一緒に食べている。外食は年2回、行事の一環として楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事のお茶や汁物、おやつのお茶などで確保できるようにしている、また、マヒのある方で十分飲み込みが出来ないときは、飲みやすい形状で提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行っている。自力でしていただいたあとに、職員が口腔内の確認を行っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で、一人ひとりの排泄パターンを把握し、失敗のないよう自立に向けた支援を行っている。	排泄パターンを把握し、時間、回数を見て誘導している。また、意思表示が難しい方には声かけをしたり、所作から気持ちを察して誘導するなどの支援をしている。立位が取れる方はできるだけ見守りに留め、排泄の自立に向けて対応している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前、午後に体操を行い、散歩を日課としている。食事面でも繊維質の食品を取り入れている。また排泄チェックで排泄状態の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴のスケジュールはあるが、利用者の希望に合わせて個々に応じた入浴支援をしている。	入浴は週2回以上となっている。浴室が空いていれば希望にあわせて入浴が出来る。体調により清拭やむくみのある方は看護師の見守りで足浴をしている。入浴したがる方には日にちをずらす、声かけの仕方や職員を替えるなど工夫して支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後の休息への声かけを行っている。日中の適度の運動により、安心して気持ちよく安眠できるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は服薬説明書で理解している。服薬管理はホーム側で行い、個々の体重の変化や異変について確認できるように努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お茶入れ、食事の盛り付け、洗濯物畳みなど、一定の利用者ではなく、一人一人の力を活かした役割が出来るように支援している。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日散歩に出かけている。	天気の日には毎日、ほぼ全員で午前中に散歩する事が日課になっている。近隣の香林寺へ行く事が多い。小田原城の紫陽花の花、フラワーセンターでの菊花展を家族も同行して見学に行き、楽しんだ事例がある。歩行が困難な方は車椅子を使い出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	こづかい管理は全てホーム側で行っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状など書かれたハガキを投函している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然の木材を使用した建物で、木の香りや温もりが心地良い環境になっている。玄関や洗面台には季節の花が飾っており、家庭的な雰囲気になるよう心がけている。	採光が良く窓から紅葉など自然の移ろい分かる。壁などに行事の写真やクリスマスの飾り付けがされている。利用者に「いつでも居て良い場所」と思ってもらえるようにリビングの席を固定している。1階リビングでは認知症対応型通所介護も行われている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下にはソファが置いてあり、いつでも自由に寛げるようになっている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を入所時にお持ちいただくようにパンフレットに明記し、慣れ親しんだ居住空間に近づけるようにしている。	居室にはエアコン、照明、カーテンが設置されている。利用者は仏壇、ベッド、タンス、テレビ、ぬいぐるみ、植物などを思い思いに持ち込んでおり、その人らしい部屋となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、廊下、風呂場には手すりを取り付けてあり、自立した生活が送れるようになっている。		

事業所名	グループホームばば箱根板橋
ユニット名	さくら

アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な雰囲気を大切にしながら日々の生活にメリハリをつける事で心身の活性化につながるようなケアに取り組んでいる。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入して、地域のイベント（お祭りや老人会）の行事にも参加させていただけるとの配慮している。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症介護の相談等について、いつでも対応可能としている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの行事や状況を報告し、ご家族、ご利用者からの要望をサービスに取り組めるように努力している。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホームの状況や情報を報告し、必要な時には協力しあえる関係を維持している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>全職員が「身体拘束をしないケア」を周知しており、やむを得ない状況以外には行わないこととしている。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>「虐待防止」についての研修等に参加し、全職員に周知徹底して防止に努めている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>利用者様に必要性が認められた時は、早急に対応して活用できるように周知している。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時及び内容変に変更などが生じたときは、丁寧にご説明するように努めている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議に、利用者様やご家族に参加していただいている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、原則毎月のカンファレンスに出席し、職員からの意見・要望・提案を聞いている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の勤務状況を把握し、賞与査定時に反映させている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へ参加しやすいようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	小田原市グループホーム連絡会に参加し、職員が出席するようにしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の不安はことや要望等は、十分傾聴すると共に、安心していただけるような信頼関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や要望の全てを話して頂けるような雰囲気作りに努め、安心して頂けるような関係作りに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と家族にとって、何か一番必要であり、要望されているかを十分に話し合ったサービス利用ができるように対応している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの基本である事を全職員が周知しており、人生の先輩である利用者様と共に過ごし合う場だと認識している。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設に入所されると、家族との絆が薄れがちなが多いため、面会時常に情報を伝えることにより、共に支えていけるように対応している。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	日常的に会話の中でご家族や昔の話題を提供する事で、ご本人の記憶を活性化させることにより、絆の大切さを感じられるように対応し、ご家族にも関係の大切さを理解して頂く様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様間の相性や性格面にも配慮し、お互いに支えあえる関係作りを支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	断ち切らない関係性を保つ事により、新しいつながりができることもあるので、縁を大切にしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々の思いや暮らし方の希望や、意向を把握して、より添ったケアができるように対応している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	受付時の情報だけでなく、入所後の移り変わる状況を常には把握している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態、残機能を把握して、よりよいケアが出来るように対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人がよりよい状況で過せるためのケアプランが作成できるように、多くの意見を反映させている。</p>		
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子を個別記録に記入し、職員全員が情報を共有している。また、気づきや工夫すべき点においても、意見交換等を行い実践し、見直しを行っている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>ご利用者の心身状態は常に変化する事を認識し、その時々発生するニーズに柔軟に対応出来るよう勤めている。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域のイベントや交流を大切にして、一人ひとりが地域資源の中で安心して暮らしを楽しめるように支援している。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している</p>	<p>かかりつけ医への受診支援や緊急時の往診依頼等の支援に最大の対応を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>ご利用者の情報や気付きは、常に全職員が共有して、看護職員に適切に伝えられるように対応している。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には、ご利用者の情報を伝え、入院中には病院からの適切な情報が受理できるように良好な関係作りを行っている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ご本人やご家族と納得のいくまで話し合いを行い、事業所で出来ることを十分に説明して、納得していただき、心置きなく終末期を迎えられるようにチームで支援し、取り組んでいる。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>症状や状況に対応出来るようなマニュアル表を作成して、全職員に配布してある。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>半年に一度、避難訓練、防災訓練を実施して、近隣の方にも協力して頂ける関係づくりをしている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心身の機能が低下していても、人生の先輩であることを念頭に置いた、対応をしている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりとより添うケアを行うことで、ご本人の思いや希望を聞き、自己決定出来る様に対応している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの心身状態やペースを大切に、職員が先回りしたケアを行わないように努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	汚れやほころび等に配慮した身だしなみや、好みの衣服を着用していただけるように支援している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを理解して、量や味付けに配慮しながら、盛り付けをし、一緒に片付けを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>一人ひとりの食事摂取量や残量の内容をチェックして、適切な状態を維持出来るように支援している。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後全員の口腔ケアを実施し、就寝前には義歯の洗浄を行うとともに、毎月定期的に歯科衛生士による口腔ケアとチェックを実施している。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>一人ひとりの排泄習慣や間隔をチェックし、排泄の失敗が軽減できるように声掛けし、支援している（日中のおむつ使用者はならず、夜間のみ数名対応している）</p>		
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>一人ひとりの排便間隔をチェックし、飲食物の工夫や運動を促していると同時に、便秘による空く英領を避ける為に服薬対応も行っている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>一応、入浴日は設定してあるが、ご利用者様の希望に対して、柔軟性のある対応をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>高齢者であることを前提としているので、体調や状況を常に把握しており、一人ひとりの希望に応じた休息方法を支援している。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>職員全員が、服薬情報を周知としており、一人ひとりの服薬支援を行うと共に、症状についても確認している。</p>		
48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>一人ひとりの生活歴や得手不得手を知り、日々の生活に張り合いを持って楽しんでいただけるように支援している。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>日々の生活の中で、散歩や外気浴を取り入れて、自然や季節の流れを感じていただけるように支援している。また、年間行事の中に外食や季節の花見物も取り組んでいる。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>こづかい管理は全てホーム側で行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方に対しては、いつでも自由に電話対応を行っており、手紙のやりとりも支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中は、リビングにいる時間が多いので、光や温度の調節に配慮し、ご利用者が不安や混乱を感じないように支援している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的には、席が決まっているが、顔見知り同士の間柄で話が盛り上がったり、ひとりでぼんやりと過されたり出来る雰囲気作りになれるよう支援している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、ご本人の使用しておられた馴染みの家具や調度を持参していただき、環境の大きな変化による混乱を防ぎ、居心地よく過ごせるように支援している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面台は広く明るく設置し、人目でわかるように表示してあるので、お一人でも使用可能であり、居室内も使用しやすいような配置にし、安全性も重視した工夫をしている。		

目 標 達 成 計 画

有)アエルシ

事業所名

グループホーム ほほ 箱根板橋

作成日

平成25年3月4日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	33	重複化した場合や終末期の対応について研修を実施されることが望めます。	平成25年度内に、看取り介護についての外部研修に参加する。(モニターター、老任クラス)	看取りに関する外部研修を受けたモニターターと老任ワーカーが所内で伝達研修を行い、スタッフ全員が共通のケアスキルを身に付ける。	平成25年4月 ～ 平成26年3月
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。